



けいはんな  
学研都市

**報道発表資料**

令和2年6月18日  
公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構  
RDMM支援センター

**「新型コロナウイルスの生活に及ぼす影響」に関するアンケート調査結果  
及びHP「アフターコロナ・生活と経済を考えるヒント」の立ち上げについて**

当機構（理事長 柏原康夫）RDMM 支援センターでは、下記のとおり、2020年5月14日（木）から24日（日）まで、Club けいはんな（※1）の会員を対象としたアンケートを実施するとともに、住民と産学公でアフターコロナの生活と経済を共に創りあげていくための羅針盤となるよう、HP「アフターコロナ・生活と経済を考えるヒント」（※2）（①現状：新型コロナの正確な情報 ②進行中：学術報告、市民感覚 ③未来：コロナ禍克服後の世界）を立ち上げました。なお、今後、けいはんな R&D イノベーションコンソーシアム会員とともに、新事業・新サービス創出につなげていくため、けいはんな学研都市に立地する企業等のニーズに係るアンケートについても実施していく予定です。

**1 調査結果の概要**

<b>調査結果 (要旨)</b>	<p>20代から80代までの幅広い年齢層の大半（92%）が家族と同居されている男女ほぼ同数の方から回答いただいた。生活への影響では、82%の方が三密を避ける等の「新しい生活様式」を理解して実践し、食材や食品の購入等では24%の方がキャッシュレスを利用するようになる一方、29%の方がマスク等衛生用品の確保に苦労している。</p> <p>また、ビッグデータ解析（※3）に係る主な意見では、緊急事態対応に係る行政への不満やいたずらに不安を煽ったりするマスコミ報道のあり方に危惧を感じる一方、学校の休校に伴う子育てや教育への不安を感じている方が多いことがうかがわれる。</p>
----------------------	---

**2 アンケート結果（まとめ）**

事 項	アンケート内容
実施方法	Web 調査
対 象 者	Clubけいはんな会員 （2020年4月末現在 会員数 2,681名）
回答数等	967名 （有効回答率=36%）
アンケート結果	<p>◇回答者の属性 20代～80代までの幅広い年齢層の方から回答を頂き、性別は男女ほぼ同数で、大半がご家族と同居され、約60%の方が有職者でした。</p> <p>◇生活への影響（選択式） <u>※グラフをご覧ください。</u></p> <p>Q5. 新しい生活様式の実践 → ほぼ全ての方が新しい生活様式の内容を理解し、「出来るものに限定する」を含め実践されています。</p> <p>Q6. 食材・食生活の変化 → 「空いている時間帯・店の選択」や「キャッシュレスの利用へのシフト」と答えた方が多くなっています。</p> <p>Q7. 自宅生活の変化 → 自宅で過ごす時間が増えたと答える方が多い中、その時間を持て余す人と楽しんでいる人に分かれています。</p> <p>Q8. 感染症対策 → 「ワクチン・処方薬」や「感染が疑われる場合の対応」など今後の対応に関する</p>

情報への要望が多くなっています。

**Q9. 趣味や外出時に欲しい情報**

→ 心配が無いと答えた方は極少数で、移動時、宿泊時、訪問場所など幅広く感染防止対策の状況へのニーズが伺われます。

**Q10. 楽しんでいる事**

→ オンラインサービス（飲み会、帰省、スポーツ、ゲーム、フィットネス）の利用者がいる一方、未利用者も一定数います。

**Q11. 苦勞している事**

→ 衛生用品確保は未だに大きな問題であり、生活の幅広い範囲で感染予防への課題認識があることが伺われます。

◇生活への影響（自由記述式） ※「ビッグデータ解析に係る主な意見」をご覧ください。

**Q12. 苦勞していること、不平・不満、心配**

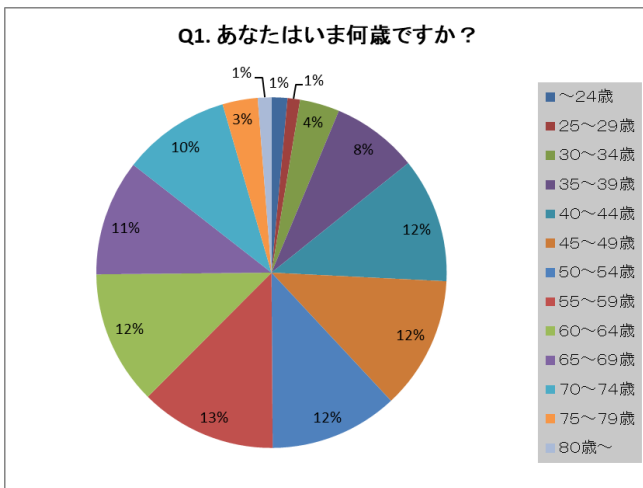
→ ①「行政に対する不満」 ②「正しい情報の発信」 ③「自粛要請の遵守」 ④「家族を守る」 ⑤「感染状況の把握」 ⑥「子育て・教育・就職への不安」及び ⑦「各種ストレスの増大」に関する声が多く寄せられました。

**Q13. オンライン診療について**

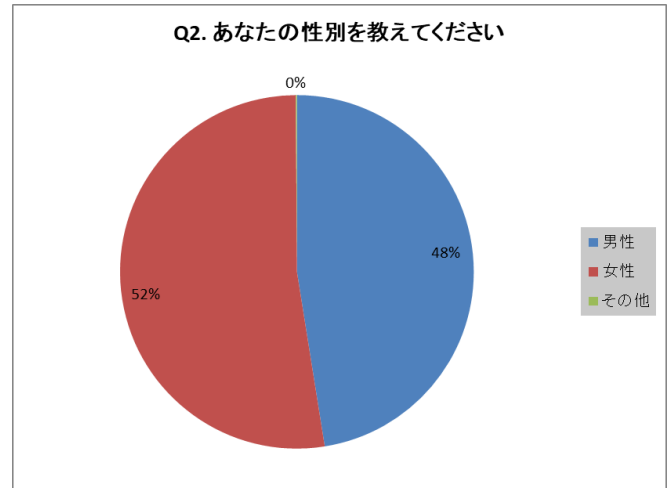
→ 様々な期待と不安の声が寄せられました。

### 3 アンケート結果（グラフ）

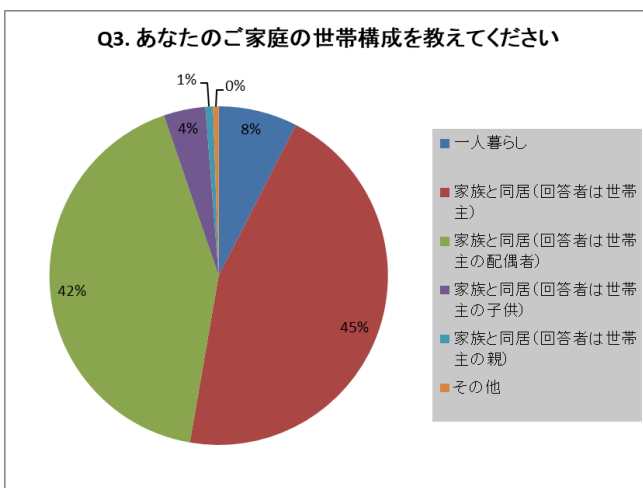
#### 【年 齢】



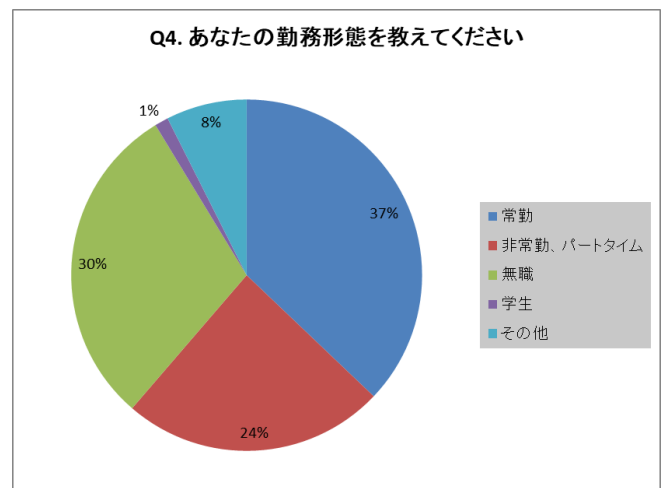
#### 【性 別】



#### 【世帯構成】

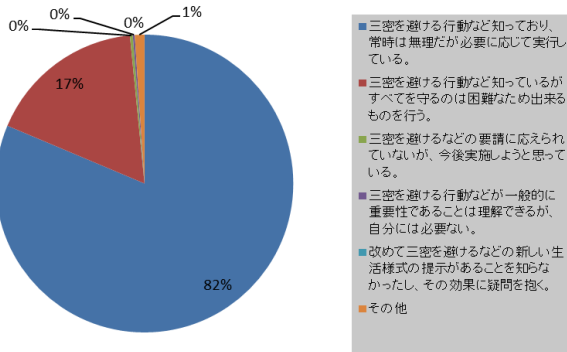


#### 【勤務形態】



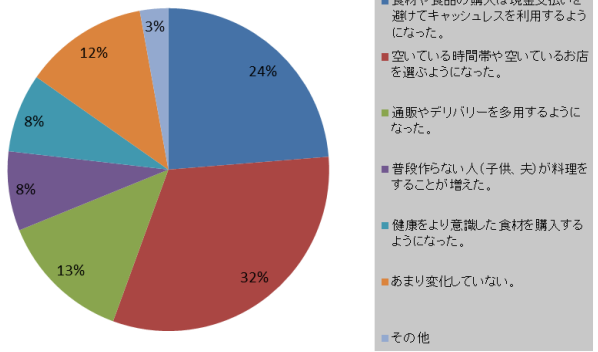
【新しい生活様式について】

Q5. 政府が発表した”新しい生活様式”についてご存知ですか。あなたのお考えに一番近いものを教えてください



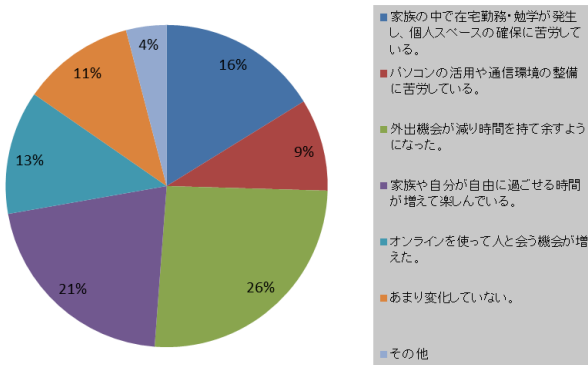
【食材購入・食生活の変化について】

Q6. あなたの食材購入・食生活の中で変化があった事を教えてください(複数選択可)



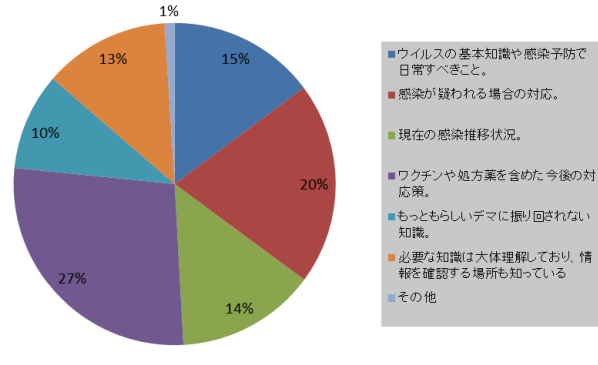
【自宅生活の変化について】

Q7. あなたの自宅生活の中で変化があったことを教えてください。(複数回答可)



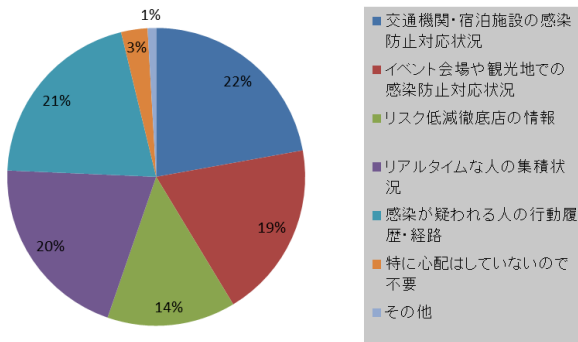
【感染症対策について】

Q8. 感染症対策に対する知識で知りたいことを教えてください。(複数回答可)



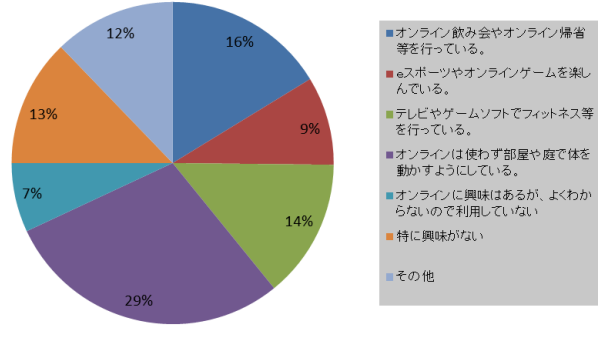
【外出時に欲しい情報について】

Q9. 今後自粛が解除され文化的な活動や旅行等外出される場合に欲しい情報は何か。教えてください。(複数回答可)

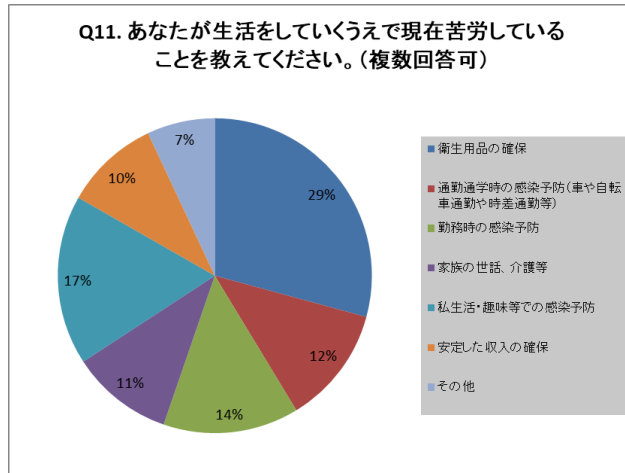


【楽しんでいる事について】

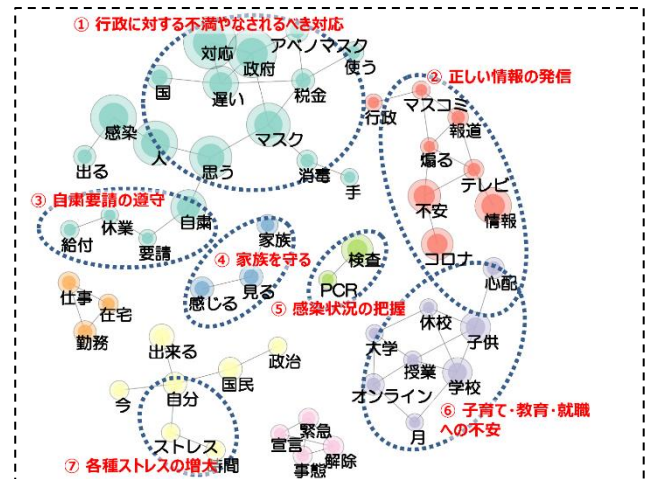
Q10. 現在自宅やオンラインで楽しんでいることを教えてください。(複数回答可)



## 【苦勞している事について】



## ビッグデータ解析



## 4 ビッグデータ解析に係る主な意見

Q. 12; コロナが暮らしに与えた影響に対する意見;『最も言いたいことや知りたいこと、不満に思うこと』

### ①行政に対する不満やなされるべき対応

- ・政府や役所の対応に手間がかかり、遅い事。緊急事態に対応していない。
- ・リーダーシップをとる人が地元にはいない。
- ・今後も影響が長引き、「共存」の時代になると思うが、引き締めの際に、補償に裏打ちされた強制力を発揮できる法的整備や施策がないのは大きな問題。
- ・野菜が手に入りにくくなった一方、農家の方は作物が余って処分に困っていると聞くと、手段等色々大変だろうとは思いますが双方が上手くいく方法がないものかと思ってしまう。
- ・コロナによって、激務になった人と仕事を失った人が二極化したように思います。激務になった人の仕事をシェアできる仕組みができないものかと思う。例えば、ホテルで隔離状態の人のお弁当を、休業を余儀なくされた飲食店の人が作るとか、陰性になって自宅に帰った人のその後の状況確認を、保健所の職員に代わって仕事を失った人が電話をかけるとか、そういう事業運営に国の資金を投入して欲しい。

### ②正しい情報の発信

- ・報道（特にテレビ）の表現で、国民はどの方向にも誘導される。トイレットペーパーの品不足も、医療関係者へのバッシングも。一定の方向への誘導は、よくないですが、そのニュースで多くの国民が右往左往する影響、反響をふまえて報道してほしい。不安を煽るだけのニュースはやめてほしい。医療関係者はじめ、日頃より過酷な状況下で仕事をしている人（自分も含め）がたくさんいることや、支援（マスクやお金）を早く届けるために、昼夜を問わず働いている人もいる。誰（何）かを悪者にして批判することではなく、本来の敵コロナと戦うために、みんな（日本中、世界中）が、ひとつになれるようなメディアの働きを期待する。医療関係者のみなさまには、心から感謝、感謝です。
- ・テレビ番組などで、過度に不安を煽ったり、誰かを糾弾するような攻撃的な内容が多いように思う。自粛生活でテレビを見る機会も増えたが、見ていてストレスを感じる事が多い。

### ③自粛要請の遵守

- ・自粛要請に罰則が無く無視をする人がいる。海外の様にもう少し強くした方が良い。
- ・自粛警察のように対応が過度にならないように。
- ・自粛が長すぎると、高齢者の要介護予防対策が難しくなる。

### ④家族を守る

- ・今後第2波が来たときの、世の中の対応はどうなるのか？
- ・家族がコロナを軽く見ている、慎重な行動をしない。
- ・衛生用品が不足し値段も高騰していて、なかなか入手出来ない。

## ⑤感染状況の把握

- ・感染状況（経路不明者）、感染者の治療の状況、PCR 陽性率など感染に関する詳細な情報を正確にかつある程度リアルタイムに発信してほしい。
- ・PCR 検査の早期拡充、唾液による検査の開始。
- ・不顕性感染を含めた真の感染規模を調査しないこと、感染と発症を区別せずに行われる議論が多いこと。

## ⑥子育て・教育・就職への不安

- ・今後の教育方針、文部科学省が示さないこと。
- ・学校のオンライン化などの進みが遅い。密を避けるような形での登校などをもう少し検討してほしい。
- ・保育所の自粛要請で孫を見ているが、限界！預けて感染しても困るし、在宅勤務でも育児はできないので預かっている。

## ⑦各種ストレスの増大

- ・母が老人施設に入所しており、これまでは毎週のように面会に行ってきた。コロナ対応で面会ができなくなり、認知機能の低下を懸念している。
- ・24 時間家に居続けるのは疲れる。家族以外と会話出来ないストレス。
- ・まわりの人でも感染予防に対する意識に高低差がある。自分と意識の違う相手とどうつきあっていくかが今後の課題です。

## Q. 13: オンライン診療に対する意見；『期待、不安、是非など』

- ・病気の種類にもよりますが、花粉症などで再診の場合には、オンラインで診断、処方箋の発行などできると思います。
- ・オンライン診療は高齢者にとって往復の交通機関や待ち時間など負担が軽減されて助かる。また大病院から近くの医院、診療所などへ指示などがきて対応できるようになると助かる。介護についても同様に困った時にオンラインで状況を説明し対応してもらえると安心。療養食の宅配もあると便利だと思う。
- ・食事に関しては、日頃から作る手間や、栄養を考える手間が煩わしかったので、オンラインサービスでアレルギーを持った子供から持病を持った大人までそれぞれに合った内容の食事の宅配があればとても助かる。
- ・聴診や触診など肌で感じないとわからないこともあり、きちんとした診断ができるのか不安。
- ・大都市ではできることがあたかも国全体でできるような錯覚におちいる。田舎町での状況をも情報を流すべきだ。
- ・介護はオンラインでできない。親が他県に住んでいる場合、それも老老介護の場合は外出自粛ばかりをアナウンスされても困る。

## 【参考】 Club けいはんな (※1)

けいはんな学研都市在住者を中心とした 20 代から 80 代までの幅広い年齢層の方から構成される、企業の新産業・新サービスの創出に寄与する住民サポーター組織。

## アフターコロナ・生活と経済を考えるヒント (※2)

[https://www.kri.or.jp/rdmm/\\_clubcovid-19/](https://www.kri.or.jp/rdmm/_clubcovid-19/)

## ビッグデータ解析 (※3)

解析（関連性の可視化）には、立命館大学産業社会学部 樋口耕一教授制作の KH Coder を活用。円の大きさが出現頻度の高さを示し、円の近さが関連度の強さを示す。

### ■本件に関するお問合せ：

公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構  
R DMM支援センター（担当：古久保、菰渕、大西）

<https://www.kri.or.jp/rdmm/>

Tel : 0774-98-2238 / FAX0774-98-2202 / e-mail : [rdmm@kri.or.jp](mailto:rdmm@kri.or.jp)

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザ ラボ棟 3F